

理念哲学研究部会

平成 25 (2013) 年度研究部会報告

(理念哲学研究部会)

研究部会メンバー

福留民夫、山本毅、武藤信夫、村山元理、遠藤梨栄、西藤輝、佐藤陽一、
竹内予侑子、田中宏司、辻井清吾、長塚皓右、西村晋、新井信洋、青木崇、
高橋 太一、古山英二、望月雅和、緒賀正浩、佐藤 聡彦、伊東久美子、

*宇佐神正明 (*印は会長、年度末会員数 計 21 名)

研究部会設立年月 1994 (平成6) 年3月

平成 25 年度研究活動報告

4月：(経営倫理の今日的課題) を踏まえた、部会としての出版物の作成。

田坂『目に見えない資本主義』1話.4話：古山氏報告。8名参加

5月：田坂「同書」5話～8話：望月氏報告を巡り、質疑。3名参加

6月：田坂「同書」5話～8話：山本氏報告を巡り、質疑。4名参加

7月：田坂「同書」のまとめ：佐藤氏報告、5つのパラダイムシフトの意義。 9名参加

8月：『新世紀<経営の心>』を参考に、第二弾の準備に入る。 6名参加

9月：暑気払い(サイゼリア)；8月までの総括(佐藤「○△□」等)6名参加

10月：宇佐神欠席のため、佐藤氏が佐藤「○△□」等)により進行を務めた。3名参加

11月：佐藤聡彦氏参加。『21世紀<経営の倫理>』の構想；8名参加

12月：佐藤陽一「基本的認識と企業の在り方」を巡り発表。9名参加

2月：辻井「仏教とキリスト教の倫理上から見た比較」、

古山：高巖『ビジネスエシックス「企業倫理」』の紹介。8名参加

3月：山本氏が哲学史上の人物と業績を網羅的(西欧・東洋・日本)に提示。8名参加

研究成果：2013年度の成果

1) 田坂『Invisible Capitalism 目に見えない資本主義』を通し、21世紀の資本主義の在り方が、ジャック・アタリ『21世紀の歴史』の提示した今後の社会の動向と課題及びその方向性を把握することができた。

2) 理念哲学部会として、経営倫理学会発足20周年を記念して『21世紀の<経営の倫理>』を出版すべく、その作業を開始することができた。

① 会員がそれぞれのテーマから21世紀の経営倫理の課題に迫る作業を始めた。

② 21世紀の人類の歩みとそこにおける日本の地位について(宇佐神)

宇宙における人間の地位を宇宙が生み出した地球の生態系と宇宙物理学

の人間原理との関連で捉え直し、その倫理的位置づけと人類社会の精神史

的展開とを関連づけて捉え直す。粒の〈いのち〉＝個人に立脚する西欧近代と場の〈いのち〉に立脚する日本との対比が重要となる。その両者を止揚するものが21世紀のポストモダンの共同体であろう。

3) 21世紀における経営倫理は地球の生態系と人類の平和共存に責任がある。

平成26(2014)年度の研究活動予定

一、上記『21世紀の〈経営の倫理〉』原稿作成が今年度の課題となる。

1) 研究成果の完成度の高い原稿化

各論のテーマ確定に先立ち、理念哲学部会の課題から位置づけること。

内容や論述等の完成度を執筆者の努力と全体的検討を通して高める必要がある。

2) 経営倫理の観点から、地球という場の〈いのち〉の全体への責任ある対応が必要。

政治経済における経営、学校や地域の経営等の経営責任と倫理的課題の明確化。

3) 宇宙的〈いのち〉との関連で、人間の倫理的責任を明確にする等、ホリスティックな〈いのち〉の視点から、人間の経営責任を明らかにする。

二、基礎的研究と全人類的精神史への視圏の確立

1) 当部会での研究成果の共有：和辻『人間の学としての倫理学』、J.アタリ

『21世紀の歴史』、田坂弘志(上掲)、山本七平『勤勉の哲学』等の評価。

2) 人類的精神史の確立：シャルダン『現象としての人間』とDNAからの人類の再評価。

三、経営倫理の構造的把握：良心、公開性、法令順守、応答責任、説明責任の連関

監査・ガバナンス研究部会 2013(平成25)年度研究部会報告

平成25(2013)年度研究部会報告

(監査・ガバナンス研究部会)

"研究部会メンバー" 井上 泉 今井祐* 上原利夫 大関 誠 岡田佳男 河口洋徳 勝田和行
嶋多明夫 高橋栄一 中嶋康男 中村 眞 浜辺陽一郎 林 順一 日向浩幸 山本 正 山脇 徹

(*印は部会長、計16名)

"研究部会 設立年月" 平成7年(1995)3月

"平成25年度 研究活動 報告"

1. 部会ミッション：「経営倫理」の観点から、組織統治(「コーポレート・ガバナンス＝企業統治」を含む)について監査の視点を含め研究し、健全な組織・企業経営に資することを使命とする。

2. 部会基本テーマ：「健全なコーポレート・ガバナンス(組織・企業統治)を実現するための制度・運用と役員等のあり方」

3. 個別テーマ(研究発表大会を含む)

25年4月：平成25年度部会ミッション、基本テーマ、個別テーマの検討・最終決定

25年5月：今井祐「日本振興銀行の経営破綻」

25年6月：浜辺陽一郎「監査・監督委員会設置会社をめぐる議論の状況」
上原利夫「どんな社外取締役が上場会社に貢献できるのか、これこそアベノミクス第三の矢 第三の矢」

- ・ 研究発表大会で3名発表（後述）

25年7月： 井上泉「アップル社にみる米国取締役会の実相について」
勝田和行「意思決定ボードのダイバーシティの意義について」

25年9月： 井上泉「大王製紙と同族経営の限界」
嶋多明夫「武士道・武士道精神の本質」

25年10月：山本正「想定外は監査対象か」
河口洋徳「SNS時代の危機管理」

25年11月： 河口洋徳「内部統制等における有効性判断について」
井上泉「カネボウ美白化粧品事件－CSRからの大いなる逸脱」

25年12月：浜辺陽一郎「2014年会社法改正の問題点 浜辺陽一郎「2014年会社法改正の問題点」

今井祐「日本航空（JAL）の経営破綻」

26年1月：日向浩幸「介護経営の倫理とコーポレート・ガバナンス」
大関誠「新 COSO フレームワークの概要」

26年2月：今井祐「日本航空再建に見る「経営者稲盛和夫の経営哲学」の学問的考察」
勝田和行「監査等委員会設置会社のガバナンスを考える」

26年3月：山脇徹「原子力発電と倫理に基づくガバナンス（組織統治）のあり方－政府組織編」

研究成果（1）発表大会・今井祐「経営理念・経営倫理・Board Diversity等の複合的欠陥がもたらす、米国大企業の経営破綻」

- ・ 山脇徹「原子力発電と倫理に基づくガバナンス（組織統治）のあり方」
- ・ 日向浩幸「クリニカルガバナンスと医療の質の保証」

（2）部会ミッション・基本テーマ関連の研究が14件あり、健全な企業統治のために、経営理念・経営倫理・コンプライアンスがしっかり浸透していることが重要である事が分った。会社法改正関連が4件あり浜辺客員部会員の講話が有益であった。員の講話が有益であった。

（3）雑誌投稿：『経営倫理』河口洋徳『SNS時代の危機管理』
『経理情報』今井祐「米国 COSO の倫理的価値観と稲盛和夫の経営哲学」

(4) 監査・ガバナンス研究部会の議事録を学会のホームページに 11 月度から掲載 ページに掲載

平成 26 年度研究活動予定

監査・ガバナンス研究部会 「平成 26 年度部会活動予定」

1. 監査・ガバナンス研究部会ミッション（使命）

「経営倫理」の観点から、組織統治（「コーポレート・ガバナンス=企業統治」を含む）について監査の視点を含めて研究し、健全な組織・企業経営に資することを使命とする。

2. 平成 26 年度研究発表大会統一論題：H25 年 9 月理事会決定

「プロフェッション教育と経営倫理」、(於；青山学院大学、6 月 21~22 日)

3. 平成 26 年度監査・ガバナンス研究部会の基本テーマ

「健全なコーポレート・ガバナンス（組織・企業統治）を実現するための制度・運用と役員等のあり方」

4. 平成 26 年度監査・ガバナンス研究部会の個別テーマ

個別定例テーマ 発表者 備考

H26/

4・18 H26 年度部会ミッション、基本テーマ、個別テーマの最終決定等

「川崎重工」社長解任劇に見る、取締役会決議の正当性とは 全員・今井 No.198

5・16 反社会的勢力への対応に関する諸問題 三越 岡田社長解任劇に見る、取締役会決議の正当性とは 井上・今井 No.199

6・20 監査役の第三者責任に関する判例動向（会 429 条関連）

原子力発電と倫理に基づくガバナンス（組織統治）のあり方－I（「東電」編） 浜辺
山脇 No.200,6/21,22 総会・発表大会

7・18 「監査等委員会設置会社」を活かしたガバナンスの仕組みづくり

日本企業における基層的規範意識と武士道精神 勝田・嶋多 No.201

8・休会 休会 休会

9・19 JR 北海道の病理 ケイ報告書と日本へのインプリケーション 井上・林 No.202

10・17 「不作為による損害」の極小化の模索－監査・監督機能の質向上のために

モニタリング・モデルに関する件（仮） 山本・大関 No.203

11・21 社外取締役が機能するための環境と条件 ケーススタディ「安愚楽牧場事件」 中嶋・

井上 No.204 12・19 国立銀行条例と旧商法に学ぶ 監査役の会社に対する責任に関する判例動向（会 423 条関連） 上原・浜辺 No.205

H27/ 1・16 儒教及びやまと心と日本企業における基層的規範意識

分野別監査概念（会計、ITG、環境、情報セキュリティ等） 嶋多 河口 No.206

2・20 ベンチャー創造の理念と倫理戦略

グローバル時代のリーガル・ファンクション

平成27年度研究発表大会提出用予稿論文について 日向・今井・全員 No.207

3・13 原子力発電と倫理に基づくガバナンス（組織統治）のあり方

－Ⅱ（政府組織編）

平成27年度部会基本テーマ案及び個別テーマ案検討 山脇・全員 No.208

5. H26 年度研究発表大会（6月21～22日）・於；青山学院大学、今井、井上、勝田、日向が自由論題を発表予定

以 上

実証調査研究部会

平成25（2013）年度研究部会報告

メンバー 中野 千秋、井上 泉、梅津 光弘、大川 幸弘、小泉 耕一郎、高 巖、長塚 皓右、
野村 千佳子、*福永 晶彦、山田 敏之、横田理宇（*印は部会長 計11名）

研究部会設立年月 平成7年（1995年）9月

25年度研究活動報告

作業部会3名(中野、山田、福永・敬称略)を中心に倫理風土の定量的測定調査を行なった。このような先行研究はVictor and Cullenのものが有名であるが、我が国においてはたして、それが有効なのかはいまだ研究がおこなわれていない状況であり、それを検討する調査である。同調査は山田先生、中野先生のご尽力により麗澤大学企業倫理研究センターの研究として行うこととなった。現在、山田先生を中心に論文「組織の倫理風土の定量的測定」としてまとめられており、同研究の内容は平成26年度の大会で報告し、学会誌にろう分を投稿する予定である。

研究成果 Victor and Cullen による企業の倫理的風土の測定指標が我が国で適応可能か検討する調査研究を行った。同研究はインターネットを使用したアンケート調査として行われた。

平成26年度

活動予定 学会発表、論文投稿を進める。今後の調査課題の検討を行う。

(以上、文責・福永晶彦)

CSR 研究部会

平成25（2013）年度研究部会報告

"研究部会 メンバー" "水尾順一（*）、田中宏司、馬越恵美子、清水正道、蟻生俊夫、北村和敏、杉田純一、箕輪睦夫、明石雅史、笹谷秀光、西本隆義、平塚 直、山田雅穂、昆 政彦、西藤 輝、齊藤全彦、河口洋徳、宮川 聡、松田千恵子、古谷由紀子、齊藤善成、佐伯隆博、文 載皓、荻野博司、熊谷謙一、村松邦子、菅原和巳、新城 修、星野邦夫、平野 琢、山脇 徹、本橋

潤子、吉田哲朗、シュレスタ・ブパール・マン、桑山三恵子、枝川陽子、矢野友三郎、阿部博人、水上武彦、福本ともみ、福田 隆、横山恵子、加藤美香保、村井 淳、引口真博、田中信弘、西井寿里、 桜木君枝、小池裕子、上原 修、斉藤智文、岩根裕一、福田英男、萩原道雄、黒澤正一、井上昌美、斉藤智恵美、 中嶋康雄、高浦康有、大泉英隆、長谷川忠、田邊 雄、藤澤 文、高野一彦、長谷春輝"

(*印は会長 計 65 名)

"研究部会 設立年月" 平成 16 年 5 月

"平成 25 年度 研究活動 報告" 毎月第 2 火曜日に電力中央研究所会議室(大手町)にて部会を開催するとともに、以下の活動を中心に行った。

1. 部会メンバーによる事例・研究報告

"「東日本大震災における企業の危機管理・BCP の実態調査と提言」(高野一彦、蟻生俊夫、桑山三恵子、 佐伯 隆博、杉田純一、星野邦夫、山中 裕)"「コミュニティ CSR」の時代 -伊藤園の事例等に見る ISO26000 による新たな CSR」(笹谷秀光)「韓国の多国籍企業の CSR」(文載皓)「アデランスの CSR 活動「事業と一体化した戦略的 CSR」」(箕輪睦夫)

「メディアと社会」(荻野博司)「大学の社会的責任： 学生は 4 年間で何を身に付けるか？」(藤澤 文)「サプライチェーンを軽視し続ける企業経営は会社をつぶす！」(上原 修)「CSR とコミュニケーション」(清水正道)「CSR と異文化経営」(馬越恵美子)

2. 部会メンバー以外による報告

「米国の事業環境とビジネス倫理～日本企業のグローバル化へ向けた考察」(田邊 雄 (株)サイボウズ)「経営倫理と CSR」(高橋浩夫 学会長)

3. 三方よし CSR 研修の実施(12月6日-7日)

4. CSR 研究部会 101 回記念ミニシンポジウム『CSR コラボレーション』を開催、関連資料集を作成・配布

5. プロジェクト研究「東日本大震災を踏まえたステークホルダーとの協働による CSR 実践の提言」の推進

①ISO26000CSR 検討 WG、②震災影響 WG、③社会貢献 WG、④BCP、リスク管理、戦略 WG、⑤消費者 WG、

⑥地域社会 WG、⑦NPO/NGO WG、⑧関係性・提言検討 WG の 8 つの WG に分かれて調査・研究を推進。

6. 日本経営倫理学会全国大会等における研究発表

7. 第 6 回経営倫理シンポジウムなど学会活動への協力

8. その他(メンバー間の情報交換、BERC との研究交流、講演・雑誌掲載による CSR イニシアチブの普及など)

" 研究成果 " "日本経営倫理学会誌第 21 号への投稿 (山田雅穂、平塚 琢、高野一彦、蟻生俊夫、桑山三恵子、佐伯 隆博、杉田純一、星野邦夫、山中 裕、小池裕子、水尾順一、古谷由紀子) "

" 平成 26 年度 研究活動 予定 " 平成 25 年度の活動成果を踏まえ、平成 26 年度も毎月第 2 火曜日に電力中央研究所会議室 (大手町) にて部会を開催し、以下の内容を中心に活動する予定。

1. 各メンバーによる事例・研究報告
2. 単行本「三方よしに学ぶ、人に好かれる会社(仮)」の作成、刊行
3. ISO26000 および統合報告書への対応と評価
4. 学会での研究発表
5. その他

以上

企業行動研究部会 2013 年度活動報告

(企業行動研究部会)

"研究部会 メンバー (*印 会長) " 朝倉久男、荒川祥子、安藤顕、岩倉秀雄、上原利夫、遠藤淳一、遠藤梨栄、大泉英隆、岡田佳男、勝田和行、加藤隆一、河口洋徳、北川則道、木下博生、熊本一夫、栗栖徳雄、桑山千恵子、剣持隆、小池裕子、西藤輝、斉藤千恵美、酒井恒雄、佐久間健、佐藤陽一、柴柳英二、鈴木啓允、*瀬名敏夫、潜道文子、高橋太一、武谷香、田村尚子、出口純輔、中島悟史、那須一貴、西井寿里、西村大樹、西村秀美、根城泰、野瀬哲郎、野田賢介、長谷川忠、比賀江克之、樋口晴彦、肥後文雄、菱山隆二、古谷由紀子、古山英二、増岡泰彦、増淵隆史、松尾實、松本邦明、丸山千賀子、水島なほみ、水野雄史、峰内謙一、宮川準、山口謙吉、山中裕、山本洋、横館久宜、吉村典久 (計 61 名)

"研究部会 設立年月" 平成 7 年 3 月

平成 25 年度研究活動報告

4 月(第 200 回) …意見交換「月例部会第 200 回記念事業について」

意見交換「人権・ダイバーシティ・ウーマノミクス」

5 月…発表「CSR の視点からダイバーシティを考える」(勝田)

6 月…発表「200 回記念事業としての出版物発行について」(佐久間)

発表「大学における経営倫理学の講座開設について」(古山)

7 月…意見交換「200 回記念事業・記念出版について」

発表「原発事故から経営倫理を考える」(勝田)

意見交換「第 20 回研究発表大会のレビュー」

8 月…意見交換「記念出版編集委員会報告」(佐久間)

- 発表「2014年開催 ESDに関する国際会議 in 岡山について」(西井)
- 9月…発表「第6回経営倫理シンポジウム招聘講演者 Prof. D. Vogel について」
(古山)
- 意見交換「記念出版物の提言内容について」(佐久間)
- 10月…発表「日本の評判、良くなっているのでは？」(峰内)
- 発表 「CSRの視点から『女性の活躍』を考える」(勝田)
- 11月…発表「製薬業界の透明性に関する報告」(出口)
- 発表「FISUカンフェレンス(情報とマスコミについて)」 (西井)
- 12月…意見交換「特定秘密保護法案について」(佐藤)
- 意見交換「食材偽装問題・研究偽装問題・みずほ銀行反社会取引問題について」
- 1月…発表「日本企業-TOP交代-革新的選択」(佐藤)
- 発表「中規模上場企業の新たなガバナンスを考える」(勝田)
- 2月…発表・意見交換「プロフェッションとは何か」(佐藤)
- 発表「『株主の株主による株主のための会社』でよいのか」(峰内)
- 3月…意見交換「当部会の運営について」
- 発表・意見交換「株主資本主義と日本企業のガバナンスについて」(峰内)

月例部会には平均16名が参加し毎回2時間半にわたる熱心な意見交換を行なった。

日曜ランチ懇談会は第1回目を6月30日に開催、9名参加。第2回目は12月15日に

200回記念パーティの形で開催。高橋会長を始め学会関係者、部会員合計24名に参加頂いた。

"研究成果" 当部会の月例部会は平成25年4月に第200回を迎えた。平成7年3月に部会が創設されて以来、18年余にわたって主として企業の行動に焦点をあてた経営倫理のあり方を研究してきた。200回を記念して18年間を振り返った記念誌「企業行動研究会200回のあゆみ」を12月に発行した。また本年度の研究テーマであるダイバーシティに関連する女性の社会的な能力の活用に関する出版物を刊行すべく取り組んでいる。当部会はビジネス経験者が多いので理論に偏らず実社会における経営倫理のあり方についての研究に力を入れている。

尚、小坂前部会長が平成25年末に急逝されたため瀬名幹事が部会長に選出された。

"平成26年度 研究活動 予定" 平成26年3月の月例部会が第211回となり、3月末時点の部会員数は61名である。

ビジネス経験や海外経験の豊富なメンバーが多いので理想論だけでなく現実を直視した方法論、即ち、グローバルな環境において多種多様な人材に通用する経営倫理の具体論を追求して行きたい。その為にグローバルな不祥事の事例研究や外国人にも受け入れられる良き日本的経営倫理についての研究にも積極的に取り組んで行く所存である。 以上

経営倫理教育研究部会

平成 25 (2013) 年度研究部会報告

2013年度の経営倫理教育部会は企業倫理を大学等で教える専任教員を中心とし、研究と教育実践に関わる活動を実施した。

2013年9月8日には、第3回となる「復興構想インターゼミナール」を東北大学で開催した。今回は震災の中心でもあった、

仙台市の東北大学を会場に、東北大学、東北学院大学、慶應義塾大学、名古屋大学、関西大学の5グループが参加して行われた。

高橋浩夫会長も審査員として参加され、活潑な研究報告と質疑応答の時がもたれた。

震災復興をテーマとして、企業、NGO、政府、国際団体、大学などを連携させたグループ研究発表は理論と実践の両方を一度に学べるプロジェクト型授業の実践成果の発表も兼ねており、準備は5月ごろから始まり、夏休みを通じて活動を行い、9月での発表会というパターンがルーティーンとなってきた。今後は東北地方の復興構想というテーマを拡大し、全国あるいは全世界における復興構想やCSRのあり方という新たな課題のもとに再編する予定である。本年度開催校の責任者であった東北大学高浦先生のご尽力に感謝したい。来年度開催校は関西大学で9月下旬の開催を目指している。

3月29日には、研究発表会を近畿大学東大阪キャンパスで実施した。梅津部会長の挨拶のあと、嶋根政充先生（明海大学）より「コンプライアンス過多は企業競争力を減じるか」、潜道文子先生（拓殖大学）より、「スポーツの可能性を開く、社会的企業家精神」という興味深い研究発表があった。また中谷常二先生（近畿大学）からは現在進行中の「SNSをめぐる倫理的課題」といった最新の研究および出版についてのご発表をいただいた。それぞれ、活潑な質疑応答が行われた。

また、今年度は教育部会メンバーから、経営倫理教育に関する書籍の出版があった。岡部幸徳先生（金沢工業大学）の『よくわかる経営倫理・CSRのケースメソッド エシックストレーニングのすすめ』と高田一樹先生（南山大学）の『48のケースで学ぶ職業倫理 意思決定の手法と実践』レイモンド・S.ファイファー著、高田一樹訳である。両著者、訳者より出版の経緯などのご説明を伺う事ができた。

今年度は東北大学から、復興構想インゼミの諸費用を準備していただいた。茲に記して感謝もうしあげたい。

本年度の支援金については全額来年度へ繰り越すことをあわせてご報告する。

以上

関西地区研究部会

平成25（2013）年度研究部会報告

"研究部会 メンバー"

大谷秀幸 加藤健二 山崎純一 吉田博 林 満男 島田 恒 葉山幹恭 谷口 照三

* 吉川吉衛 西岡健夫 笠岡一之 西井寿里 高田一樹 永松博志 飛田治則 オランゲレル

足立 克之 吉川英一郎 * 剣持 浩 持松志保 劉 宏成 倉田 実 永松博史 狩俣正雄

王 艶梅 西五辻香奈 横山恵子 他、(敬称：略) (*印は部会長&幹事、参加数約 25名)

"研究部会 設立年月" 1995年10月

平成25年結果 第1回 持松 志帆氏(川崎医療福祉大学)

日時 2013年5月25日(土曜) 場所：追手門学院大学梅田サテライト

テーマ 『規制としての責任概念から配慮としての貢献概念へ』

第2回 宮古島経済団体との合同研究会(下地宮古島市長表敬訪問)

日時 2013年9月日(水曜)~13日(金曜) 場所：宮古島市会議施設

①山崎純一氏(会員) 「小さな成長企業に学ぶ経営学」

テーマ ②大谷秀幸氏(会員) 「経営戦略としてのコンプライアンス経営」

③赤崎劉三郎氏(宮古島NPO理事) 「宮古島の地域おこし政策」

第3回 青山勲氏(岡山大学名誉教授)・西井寿里氏(川崎医療福祉大学)

日時 2013年12月7日(土曜) 場所：追手門学院大学梅田サテライト

テーマ 「ESD世界会議in岡山における経営倫理」

第4回 永松博志氏(情報セキュリティ大学院大学 博士後期課程)

日時 2014年2月15日(土曜) 場所：追手門学院大学梅田サテライト

テーマ 「コンプライアンス施策の横展開」 ~企業倫理を組織に浸透させる方法について~

"研究成果"

第1回の持松氏の発表と、第4回の永松氏の発表は良く研究した成果が表れていた。

第3回の青山勲氏のESD(Educational Sustainable Development)の説明からはこれからの新規研究の可能性が感じられた。2014年度7月に岡山で合同研究会を予定している。

第2回は会員の狩俣正雄氏(大阪市大)の故郷である沖縄県宮古島市で実施した。

内容は下記の通り。

地域社会との繋がりを目指した「経営倫理の実践研究」が沖縄県宮古島市で

行なわれたのは大きな収穫であった。基地問題など議論が多い、沖縄地区であるが、地域での社会・経済活動では経営倫理的活動の大切さを実感。地元 経済人の地域発展への意欲は強く、経済の発展には本土との交流は不可欠と考えている。

研究会終了後は地元の居酒屋で泡盛を囲んで、「番外編フリーディスカッション」を行う。

関西研究部会はこれからも地域の活性化活動（現場主義）とも連携して 研鑽を進めていく
予定。

平成 26 年予定

第 1 回 4 月 19 日（土曜）

オランゲレル氏（追手門学院大学）

「内モンゴル自治区における草原の砂漠化問題および草原保護対策についての一考察」 —中華
人民共和国草原法の検討を中心に—

第 2 回 7 月 26 日（土曜）～26 日（日曜） 岡山川崎医療福祉大学+大原美術館

横山恵子氏（関西大学）

「未定」

第 3 回 11 月 1 日（土曜）

高田一樹氏（会員）

「未定」

第 4 回 2015 年 2 月

検討中

以上

中部地区研究部会

平成 25（2013）年度研究部会報告

"研究部会 メンバー"

石川光男 伊藤敦 青木 崇 水谷内徹也 宮重徹也 蕎麦谷茂 谷口照三 荒尾一彦

平手賢治 山田秀 札野順 志野澄人 FERRER 水谷良明 岡部幸徳 勝原裕美子

永木義博 志野澄人 中矢俊博 浜田吉司 濱村由佳 平手賢治 中村直行 藤木善夫

梅野清一郎 小野琢 丸山千賀子 堀田友三郎（会長堀田友三郎、副会長蕎麦谷茂 計 28 名）

"研究部会 設立年月" 2000 年 10 月 23 日

"平成 25 年度 研究活動 報告"

2013 年度も例年通り、研究会を 2014 年 1 月 25 日に日本消費者教育学会中部支部と合同
で開催した。

30 名を超える多数の方々参加を得て、懇親交流会も 20 名を超える参加で盛況であった。毎年
楽しみにしているという声もあった。

日時 2014 年 1 月 25 日(土) 14:30～16:50

場所 椋山女学園大学現代マネジメント学部棟 307・308 室

〒464-8662 名古屋市千種区星が丘元町 17-3

第1 報告 14:30-15:00 「情報活動を基盤とした消費者教育の実践—地域金融機関による金融経済教育」

報告者：奥田真之氏（十六総合研究所）・大藪千穂氏（岐阜大学）

司 会：東珠実氏（椋山女学園大学）

第2 報告 15:00-15:30 「岐阜県における消費者被害に関する報告」

報告者：大藪千穂氏（岐阜大学）

司 会：吉本敏子氏（三重大学）

講演「競争入札制度とCSR—公共事業の消費者公共性との関わり—」 15:50-16:50

講演者：宮田 則夫 氏（宮田電工株式会社社長）

司 会：堀田友三郎 氏（東海学園大学）

懇親交流会 磯ぎんちゃく 地下鉄星ヶ丘5 番出口徒歩 1 分

" 研究成果"

中部地区で経営倫理研究に取り組む方も増加してきている。今年度は素晴らしい経営倫理観を持って経営実践されてきた宮田電工(株)取締役会長宮田則夫氏を招いて「競争入札制度と CSR—公共事業の消費者公共性との関わり—」という論題で講演していただいた。当日は私が顧問を務める日本消費者教育学会会員も合わせて 30 数名の参加者を得て盛大、活発に議論を行った。研究会終了後の懇親交流会にも多数の方々にご参加いただき、これから中部地区研究会をいかに活発化するかについて情報交換を行った。各自が経営倫理関係の研究を進化させることを確認した。

" 平成 26 年度 研究活動 予定"

2014 年度も例年通り年 1 回の地区研究大会を開催する。北陸地区で実施してから 3 年経過しているので、できれば実施したい。

中部地区に関わりのある会員のみなさんから積極的なご意見をいただき、今後の運営を進めていきたい。

（本部も含めご意見をお願いします。）また、2015 年 1 月下旬に講演あるいは研究発表していただける方を公募したい。

堀田宛にご連絡ください。

以上